越人書

完

辰
43

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

越人書

特別 辰 43

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

越人書巻之一

笏ノ字

倭名類聚鈔ニ云〇笏（シャク）　四聲字苑ニ云笏音忽俗ニ云尺

手板長サ一尺六寸闊サ三寸厚サ五分也

木笏圖

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

大和本艸巻十二栁(サノ)木下ニ云〇栁　字彙
ニ音永可ニ爲筍和名抄ニ云栁花(サノハナ)久木可ニ爲筍ト
也筍ハ竹ノヤウニ水ヲ訓ス故ニ栁ノ木ヲモツテ
作ル故ニ云ナルベシ　飛驒國位山ノ一位木。
葉筍ノ如ク細ク又一位ノ木葉ニ極テ似テ小ナリ
中略　春小白花ヲ開ク枝葉ノ間リ秋小實ヲ
結ビ赤色ナリ漢名未詳俗ニ伽羅木(キヤラボク)ト云是
イチイノ類ニ似テ小ク〇栁ノ類ニイチイト
ハ別ナリ木相似タリ實モ栁ノ如シ
俗ニ栁ト云ハ非ナリ混同スベカラズ　イチイニ二種アリ
事ヲ知ベシ
筍(コツ)ヲサシテ訓セシ事其義未詳　櫟(イチヒ)ノ名。
杮(サク)ト云イチイノ木ニ筍ヲ作ルユヘ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

誤て榛を桙(サヲ)なりと訓せ
ゆや樔を横理ありて筍状
いへども堅緻ならず故蒼ハ棟
ヨーゆやいわゆる鑿(イミツゲ)子木をも桙(サヲ)ともいふ
是もて筍状ありし
此二木共り異名ならて
サヲ状ありし故りサクと云乎

綾織

越前國丹郡上里(アガリ)村ハ古へ綾織(アヤシヲリ)
ヨ今上里(アガリ)と呼ぬ綾織(アヤシヲリ)の轉ー
ゐ伝へたる續日本紀ゟ元明天皇和銅六
年七月伊勢尾張三河駿河伊豆近江
越前丹波但馬因幡伯耆出雲播磨
備前備中備後安藝紀伊阿波伊豫

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

讃岐等二十一國を始て綾綿絁
織ることを誡りさもあんなり

屯倉

推古天皇十五年毎國屯倉（ミヤケ）
屯倉（ミヤケ）と云天子乃御料を收置倉（ヲサメオクノクラ）也 釈日本紀ヨ見ヨ
今に國ゝより三宅（ミヤケ）と云村あり
其舊蹟なり（ママ）前國堺并郡ゝも

三宅（ミヤケ）村と云あり是其國ゝの屯倉（ミヤケ）
置て貧民（ヒンミン）乃饑死（ウエシニ）を救（スクヒ）んため
なりがゝる設（マウケ）

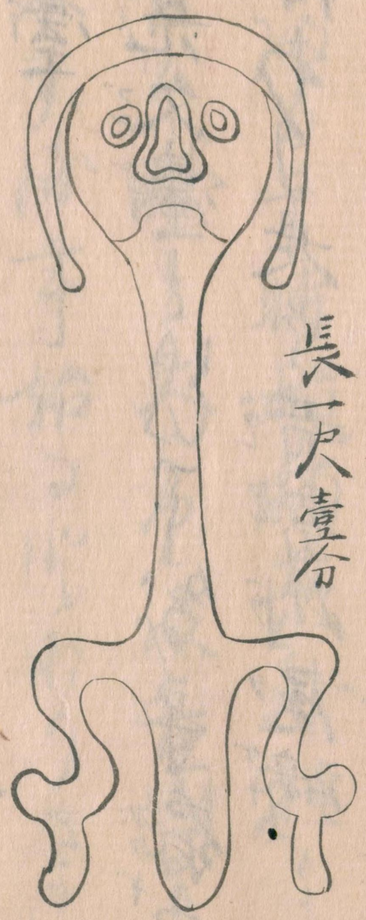
驛路鈴（エキロノスズ）

勅命（ミコトノリ）を捧（ササゲ）て遠國（トホノクニ）へ向ふ者鈴（スズ）を授（サヅケ）
ら驛路（エキロ）へ出（イデ）て是を振鳴（フリナラ）して支證（シルシ）

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

と次軍將ノ節ヲ鳴ラシ義仝し堀川
院百首ノ中ニまやぼうしの鈴ノ事ヲ讀ル是
也和哥ノ色葉ニ云官使乃行テ病ノ處ニ
驛路（うまぢ）と云官ヨリ鈴ヲ鳴テ其ヲ尋ルニ
驛ノ着（ツク）毎ニ振鳴ス病ノ
國主乃七鈴ヲもつて七遍ノ遣ヲ遣すよし
官使ノ一ノ宛（ズツ）鳴ス也ト又
鹿嶋正傳寺ノ

驛路鈴之圖



長一尺壹分

上古ノ驛路鈴ノ如ク今ノ傳ル
ものヲ其形柄香爐ノ如ク是ヲ振
ルニ音清潔（さやか）ニ高ク
ハシ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

文臺

世に二見文臺といひて名ある家あり是昔勢州尾崎と云所より連哥ありける折ふし扇子を文臺として凹き石硯拾ひて硯かと拾ひや窪又石の露

蝋燭

吾朝文禄年中はじめて蝋燭かゝ天正のころ泉州堺の商人納屋助左衛門小琉球より渡り呂宋より至り文禄三年に日本へ献ずる于時蝋燭其外種々の物珎秀吉公へ献ずる後吾國にも蝋燭製すること始まりさせる

太平記三巻り笠置軍の條に陶山小宮
山夜討の事あり其文を開くに本堂
へ上りて見るに是皇居か。覺て
蠟燭あまた點し。とうろうをともさせて振鈴の
聲幽なりかゝる小事も見たる其前
もて柱ある事なり

放免のさまを
なして草小云建治弘安の頃ハ祭礼日の
放免のさまをなりしやうかる縛の布四
ヶ端をもて馬我物をしばりて。尾髪のハそゝけ
をそくもれ井かねる水干りつきて。
哥のなど呂のいひて渡る事常ふ。
見及び侍りしなも奥州をさ志処

小て、和作りしりと。老たる適志ともの今日
も語侍べ為也。此頃ものそなをり
若ヤなよの外に成て。萬のおも記ものを多
くはきてた右の袖袋へ入り持ていで。
うちをて、我ぶ小打ぎ。ハ苦ーす
有相ハ御見ぐ我ー

文安賀茂祭ニ徒検非違使下部也

号放免検非違使馬後中央ニ立ッ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

右之圖画宝ニ出タリ

一身田（イッシンデン）

三代實録ニ云元慶三年丙寅六月勅参河（ミトノクニ カハノ）
國播豆郡（ハヅノコホリ）荒廃田（クハイデン）一百町賜（タマハル）ニ子内親王爲ニ一身（イッシン）
田（デン）とあり此類古代多く存し今見へたり
昔此田（コメ）ありし地名とのみ所（トコロ）ゝ小
此名あり一身田（ッシンデン）と八口分田（クブンデン）世掌田（シャウデン）ゝ其

人一身り賜ひしより田地の名ゝ見へ
たり

紙（カミ）袍

むかしも有しや熊谷蓮生法師の哥
ゝ

いかめしき鎧ひかる紙おもて
風乃ふかぬをも綴ざりけり

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

定笠

是等も古へよりのものの如く是へて

亭主の哥

青柳伐行糸ゆふ

かぶせいお笠も

恥ぢ伐かく

恥ぢをかくとゐる詞其出處未詳○今按ずるに

悉曇釼字とす字と真形相似

あやまつて字伐す字伐す字

書遠ㇾ事

多一是伐す字をかんとしてす字伐

書とて悉曇伐學ぬ輩ハ大ニ謗譏

笑ふ事也と記せり。もし

いひもを等ふをのり

云やうに

桑名中臣神社記ニ云ヒ祭ト云事ハ
志承ノ一共註ノ一ニ云ヒ
栂子ハ小キ物ヲ云ヒ然ルニ物ヲニヤウルト云
ヘルモ栂子ハ小キ物ヲ云事ナラン

案山子

案山子ヲ傳灯録ニ出タル又カビシト訓ゼシ
事鹿驚ハカビ訓ズ

小ク或書ニ記セリ今按スルニカビシトハ
鳥獣ヲ驚サンガタメニ弓矢持ル人ノ形ヲ
田野ニ立ル春苗代ノ頃ヨリ秋乃禾ヲ結
ニ至ル日ヲ限テ田面ヲ守リ歌ヲ謡フ事
ナリトテ日數ノ訣字ヲ以テ共訓
義ヲ志ス一ニ日ハ日ヲ謡フ事二日三日
幾日ヲ云ヒ謡フヲ云ヘリ一〇菅天海僧正

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

乃ち人を遣り問ひ尋ねて
護札(もりべ)を取りて和(ニヤ)きを
以へ且つ〻いぬりて備正よりあく寸和哥
詠て答へおくる

宮を伊賀(トガシ)宇陀山(ウダヤマ)
さかの上(ヘ)に置(オ)きかも
鳥(トリ)も木(コ)を多(オホ)く有(アリ)
声(コエ)きて和(ニヤ)とも

山陵(サンレウ)ミサバキと訓
神代巻抄(カミヨノマキノセウ)に書(カケ)り。天子(テンシ)
葬(サウ)ル所(トコロ)を崇(ソウ)阿(ア)ミサバキと
云(イフ)。三秦記(サンシンキ)に云(イフ)。秦(シン)の始皇(シクワウ)
驪山(リサン)に葬(ホウム)ル。其(ソノ)墓(ハカ)を名(ナヅ)テ
驪山(リサン)と云(イフ)。漢(カン)の高祖(カウソ)長陵(チヤウリヨウ)に葬(ホウム)ル
故(ユヘ)に通(ツウ)名(メイ)山陵(サンレウ)と云(イフ)
又山陵(サンレウ)ミサバキと訓(ヨム)ず。事(コト)を
詞(コトバ)の轉(ウツ)したるものなん。
巻天津彦彦火瓊瓊杵尊(アマツヒコヒコホノニニギノミコト)
崩(カムアガリシ)薨葬(ホウソウ)

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

日向可愛之山陵ニ葬ル
宮崎ト云地也 諸註ノ説ニ是ヘタリトシテ
考ルニ宮崎ハ小ク玉ホコノ地ノ名
ニテ其地ノ山陵ニ築ケル事是ヲ
ヒトシテ山陵ノ名ト呼ル又山陵有テ
後地名ヲモ名ヅケルヤ其先後ヲ知サル
ドモ吾國ニテ山陵ニ築ケル事是ヲ
始トシ志ヲモ和訓モカクリ起ルベ
シ何ヒトヤザキトイヘルハ山陵ノ本語ニテ
宮ハ去ノ訓義カヨベリ

八幡菩薩號

井澤長秀ノ説ニ八幡大神小菩薩号
ヲ正史ニ載テカキ事ナリ八幡

本記り應神天皇御誕生の時八流
の幡(ハタ)旒建て軍士ら
らせしかば譚(イミナ)ら八幡丸と
ぬ記せり此事俗説
今按ずるに延喜式に云筑前國那珂(ナカ)郡小笠(オガサ)原八幡大菩薩箱崎(ハコザキ)宮一座
延喜式を酌酬天皇延長
七年に奏す藤原時平撰之とあり
實に桓武帝の時菩薩號
也と見へたり又豊前國宇佐郡の
三座八幡大菩薩宇佐宮
是也其外常陸國鹿嶋
薬師(ヤクシ)菩薩(サツ)明神(ミヤウジン)社(ヤシロ)
井澤長秀亭博學の人
延喜式

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

吾國人ハ赤人の哥ヲ併セ唐土ノ

和漢名譽

李太白詩

白雨映寒山　杰々少似銀竹

續拾遺集

夕立乃晴行ふ末の空よ

いりひすゝしき山ぢ哉

後鳥羽院

物我愛スルヲ蝶や花ノ手

古言ヲ源氏物語ノ

知てとふぐさとぞ思ふ

蝶ノ手花ノ手

説ノよつて志ヲ

もミぢ葉ハ

見渡したるもの

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

西里母康方朝臣両仙を

三木好事の論

誇り梅の歩い残桜小を色志で

柳よさ智たや水い江るもゆるきあり

たもあや古哥り

梅さそ水を小台朝を

已を様り赤香は北光の志

甲冑風草（カツチウノヲトシカハ）

古代を甲冑（カツチウ）り周防草（カハ）を平草（ヘイカハ）葛（シヤウ）

蒲草（ガマカハ）四名草（シナガハ）のゆ云あり又訓閲集（キンリツシウ）

同武花國（ムサトノクニ）大渡荘（オホワタリノセウ）を四名草（シナカハ）城深るゆ

何ぞ此草（コノカハ）をも風（フウ）たる鎧（ヨロヒ）をは品草（シナカハ）風（フウ）と云

盛衰記り源頼政（ヨリマサ）品草（シナカハ）風（フウ）城着たるあ

ゟ此草（コカハ）ゟ風（フウ）を鎧（ヨロヒ）なりとぞ一説

武藏國品川驛ハ往古品
いり正平草 天平草ニ云 肥後國八代古閘橋の
邊ニて深き草也 萬葉ニ 勝武草ニ在云 山城
國八幡山麓大谷ニ取ものて深き草なり

捺物竿

予壯年の時或武士指物竿求んを河壖
ニ尋ねるに
彼武士ハ答てやる
書添ハ指物竿求んと
よけんと自らいふ并ほ一共邊の竹乃
林ハ多ニ有ぐ求ぬを
ハ彼ニ在ぐ頗ぐ
ハ彼よき并壹三本見出てあせよ
伐とらん皇の中ニ多入生ル共
邊に蜂や巢ハ分
大きか

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

蜂と群集して彼武士の顔手あ
までとりいやが上にとりまとわりよりて
螫(さし)るゆえ拂(はら)わんとする方便(てだて)をかりそれを
流石(かさが)に心掛(こころがけ)ありと武士これを時の宜
やおらとけむ多くの蜂に螫(さし)たてられ
蜂の方小当(かう)功(こう)すれども払(はら)いの間(あいだ)顔(かほ)
かもちおのれ膚(はだ)痛(いた)むを

見苦しき姿なり。かの武士もわが
得る行をに伐(き)りなすべくもあらざる
かきめかわひむなく人を除
字あるに亜(あ)ぐ蜂を蜂と盤(さし)!
いかに所をとあるを行伐(きり)見
蜂と盤(さし)ということ
硯石に物(もの)書事(かく)を忘

硯石の角ゝ物さかしく事を忌ふと古きものもゝゝゆゑや

源氏 見ぬ石井硯ゝ物さかざり文

ぬゝの楊枝も遣ひ古りぬ 菅家

天下一

近世職人古今の妙術妙手名巧の輩を天下一伎免許ゝゝ器物ゝ志ふ勢し

もあり白氏文集に云佛光和尚福智壽臘天下一人也と云ゝ

手(テ)徹

今把針所言也八雲口傳に云此哥心を得ばなほも勝(スグ)れる哥かな字餘(アマ)れるとも勝(スグ)れる哥かな字餘(アマ)れるとよろづなるべきなり

雅(アヅ)す仕(シ)のよろづの手(テ)徹(ヅ)なり由(ユ)ゝ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43

ガラス使用

聞ふくきせしかゝ云く

熊坂長範

熊坂長範ハ古へ乃盗魁なりし志かるも
慳ある傳なし唯野夫雑記の中ニもいまゝ其
或ハ加賀ゟ産なるよし俗ニ謂り熊坂長紀
證とする跡ハ見ず今俗謂ふ所ハ
六十三と年齢ハ云ものゝ其働き
ゟ長範ハ奇偶乃
きゐるものなるべし

庵

杜佑通典ニ云結草木ヲ爲戸皆曰庵ト
引ゟせてむすへゟ柴の菴なり

解ゟてもよの野原也なり

或書ニ云イホりの訓ゟ稲ハ折ゟ屋根なり

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

すなわち鏡の器也と訓

鏡の訓

或人曰鏡字カゞミと訓す
轉語ホベ〳〵ゆ云發明といふ
未
むかしを今の社ますかゝみ 後鳥羽院
なく〳〵頼む影ぞ見ゆらん
日日見の訓義也 孱ものゝ
見之

神代下巻一書曰是時天照太神手持寶鏡
授天忍穂耳尊而祝之曰吾兒視此寶鏡
當猶視吾可與同牀共殿以爲齋鏡上卷
我をくしみたまへと申ことのり
うをはらへたまふ我鏡ゆゑ

白蓮

苓陀利華 此云白蓮 身毒國ノ是我朝也

事吾(ガ)國乃梅櫻のごとく一年中寂勝の
妙色あり蓮(ハス)を崇(タフト)ぶ君子なるものとて
いへり

蓮葉(ハチス)もてつゝめる粽(チマキ)

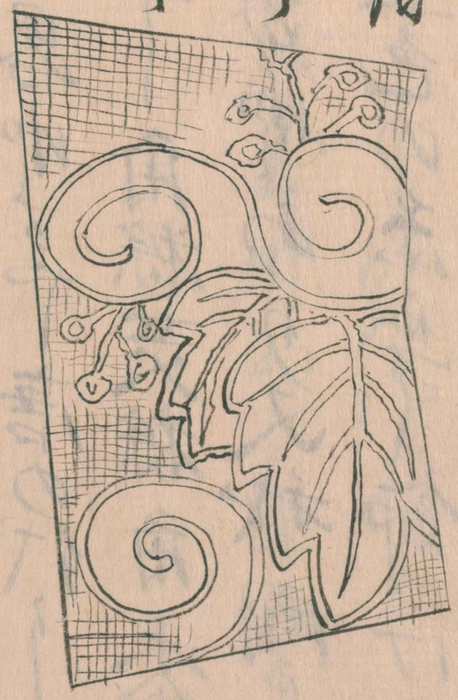
蓮葉もてつゝめる粽(チマキ)

粽(チマキ)と号(ナヅ)く茅巻(チガヤマキ)の畧(ホボ)や唐の代り
端午(タンゴ)の粽(チマキ)其品多し角粽茨粽角黍
百素粽九子粽あり又我國にも古へより粽(チマキ)五色の糸もて飾りける。
かゝるさまを伊勢物語にも人乃
もてまつる飾粽(カザリチマキ)おこせたりかき書又拾遺集
十八の詞書(コトバガキ)をも小(チヒサ)き飾粽(カザリチマキ)とあり。

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

倭文（シツリ）

古へ常陸國より織りおせ倭文（シツリ）文（モン）といふもの也ゆゑに或人小き弾（キレ）ぬるく燻（ふす）たる残見譬（みたとえ）るより地（テ）をぬかき布ゐて圖（ツ）乃（の）とく



文（モン）ありいさゝか年久（ふる）きほどの見へて手（テ）ふれなんとする迄（まで）眩（モロ）く断（チキ）離（レ）やすし

逸物（イチモツ）

或書に云我國俗謂（イヘ）鷹及獫（メカイヌ）猫俊逸（イチナル）者を偏に逸物といへりさもあるべきことなり

ざるものや平家物語等にも名ある牛車を指（さし）ありくり逸物（イチモツ）なる事乃（の）すべてのふるき

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

神田（ミトシロ）

往昔、御田（ミトシロ）とて一ヶ國に二ヶ所
の御田あり。太神宮へ初穗の神供料
収納此類の名殘る所多く大貴命（オホアナムチノミコト）
を祭る也。五穀の神ゐます故也。武蔵國豊
嶋郡神田明神も大貴命を祭る是も神田（ミトシロ）の地也

紅塵

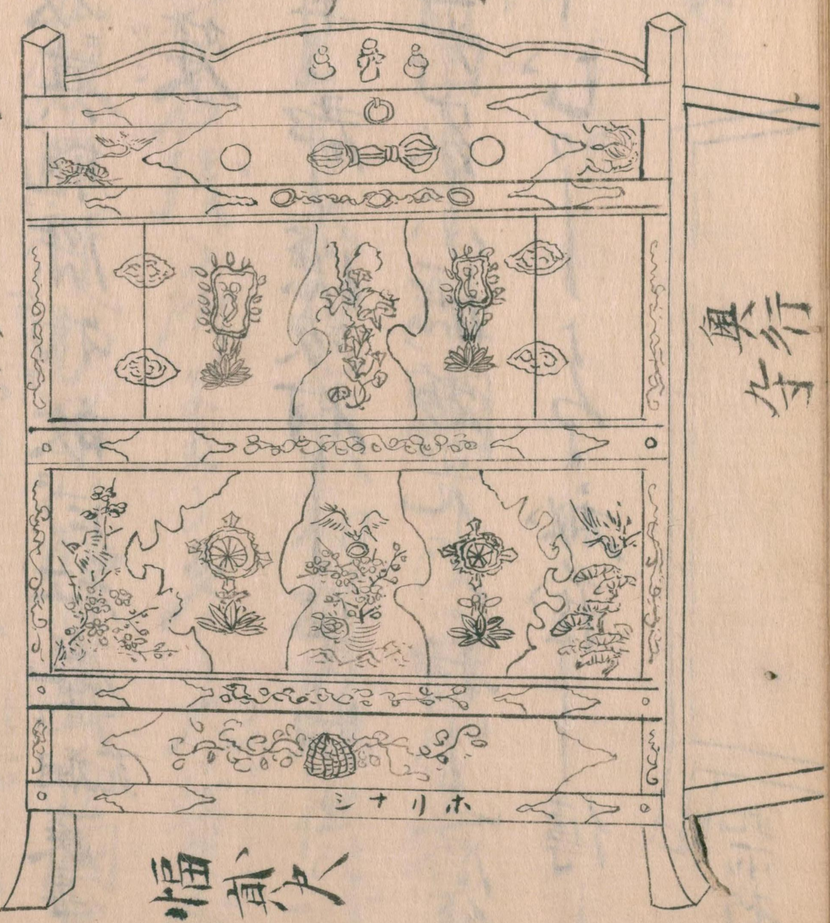
塵本無紅以其能深染物故曰紅塵
頼光（ライコウ）笈

越前國坂井郡深坂村半助という
土民あり。兵家小源頼光の持玉ふ笈
ありと聞て、むりやりに乞受て傳ふ
るあり

柴村

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

ウラ横庇ニ
木地ノ板飾
ナシ
上ノ棚観音開キ
両扉内ニ欠珠
普賢画像アリ
下ノ方指蓋
上下貫板
金物滅金
塗栗色ト
見エル



惣高サ二尺五寸

奥行

諸越原（モロコシがはら）

相模國鎌倉郡ノ諸越原ハいづる所
名所なり兵邊砂丘多く茂
出でり
夫木
名にしおふ虎や臥らんあづま野の
藤原定房

阿足よい小篠を落す
或書ニ云一条院の頃大江佐國ハ文

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43

ガラス使用

七夕

舊事紀ニ云令天棚機姫神織神衣又續
齋階記等ニ七月七日織女詣牽牛是ハ
武士といふもの偏ル也紀貫之家集ニ
雨よかし晴見せともみぬ七夕も
空うきさ石の立なるべし
筑前續風土記ニ云宗像郡小牽牛織女
の社と云大鳩と云一社乃南の海邊ニ
あり両社の間よ天の川流ル川の北
ニある社ハ牽牛と南を織女とす
石見女式ニ此社の事ハ載たる由
古今集樂雅抄ニも此社の事ハ書り

東海道五十三次
物類稱呼ニ云山谷ノ詩ニ鬼門關外莫道

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

遠五十三驛是皇州
定めらるゝものなん云〻

小袖

職原抄大全に云表着神
袖口小り故に云小袖とおなし
名目也たゞ今云小袖といふ
きづぬべし

菊乃きせもの

菊咲うつろふ世ごとに深く染りきするゆゑ
事あり禁中の菊かしらる
きせもの都ふ人の事なり
或人の方へ送りし近き年也
太き小深なる真綿(マワタ)を綿(ワタ)をとりふ
ふ

九くし中（常の木綿を太く
のあり上下同じ色の真綿（マワタ）にて
くくしめそのまん中土器（カハラケ）にて二ツ合せたる形ち
新六
垣根かゞり菊のきせともの今朝是
まで文盛の法さきり
信實

菊のきせともの圖

上の方より見たる形

上の餙

平ら丸くかりたるあり

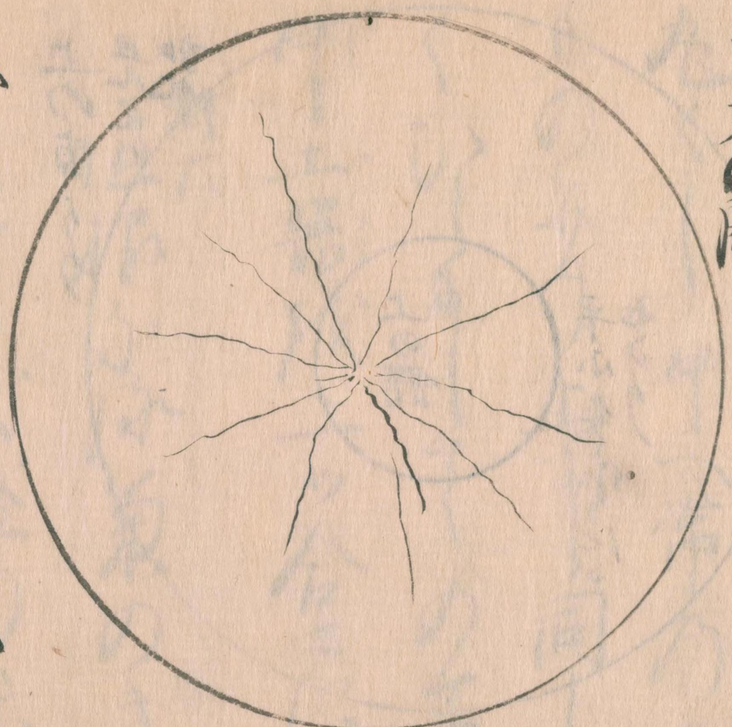
餙

横

横の方より見たる形

中土器二ツ合せる形り

ウラの圖



かくのごとくウラの方へ引よせたるものなり

菊ノごときせる時ハ中入の木綿をつゝ上ゟ引ぬきて元をおさめるものなり

青黄赤白紫ノ真綿残溜ハ元をゟりもどすなり

分切草（ワケキリサウ）

或書ニ云花山院朝ニ有リ鷹飼名ハ晴頼精其業也入神ニ有ル鷹被傷（キズヲ）ニ接草（モミテツクサ）傳之則愈（ユ）ト人乞問（コフ）尼

草名秘之不言然有リ家密ニ露洩之晴頼大忿（イカリ）ニ而傷之自此知リ鷹之良薬名ハ分切草（ワケキリサウ）

ト云ヘリ

大和本草ニ

シドギリ草葉ハ柳の如く

にして短し。実も黄色みて小粒
秋開く高丈、計其葉茎をみて其汁
を金瘡ぬりて奥効あり又鷹乃病
と犬の病を治す其葉をもめて黄色乃
汁も尿下る器

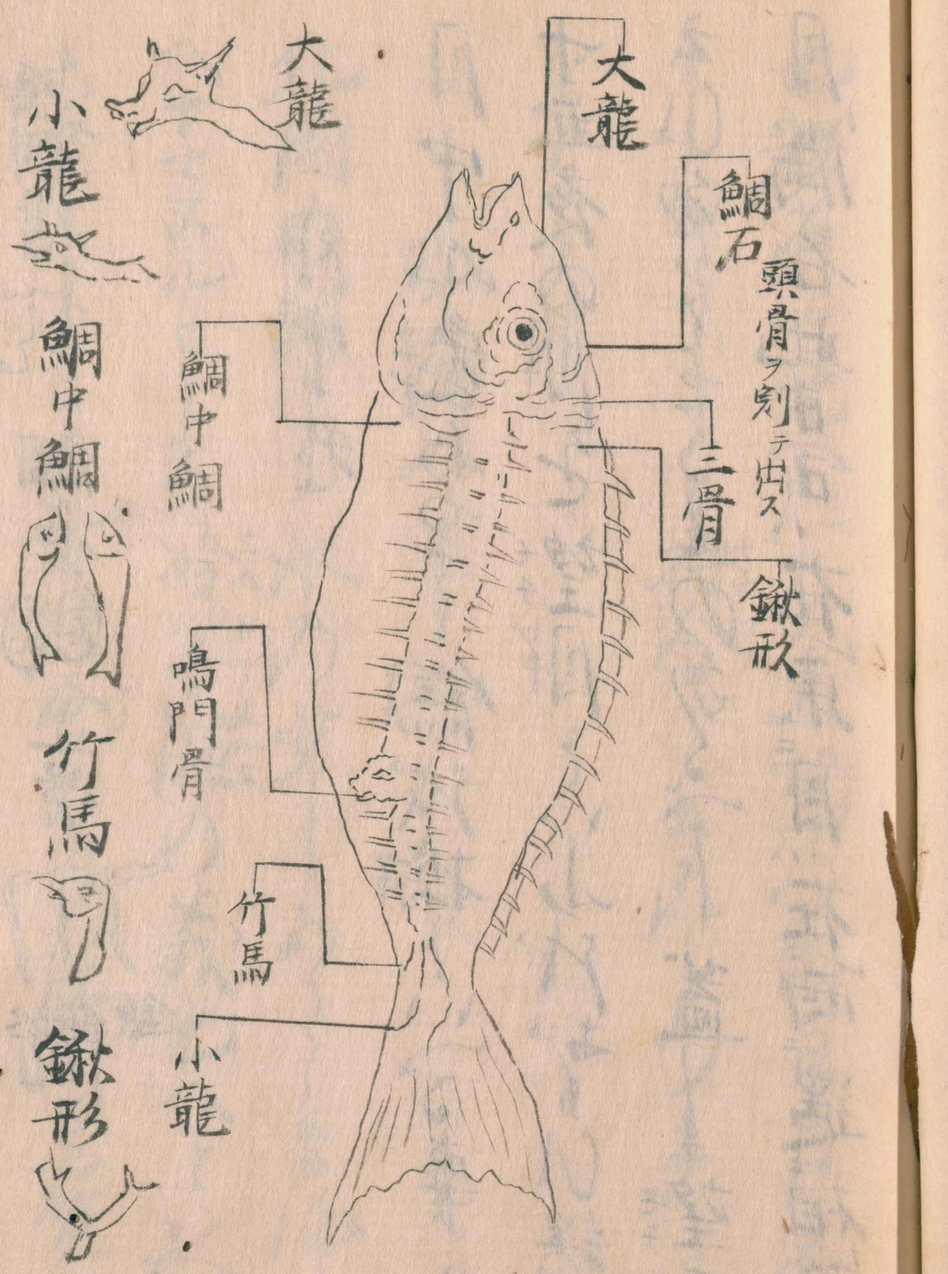
本卦かへり
俗に人乃齢六十一ヶ年を本卦乃
すぶとそいふよし事か我ながらえ
ぬ人のそおぬけかへりぬ
もおぶなり 近き年の事なるに江都
モトノ木阿弥といふもの或人のまへ
よみて送りける隠題の哥あり。

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

六十年一小變
なぜからさ記のよ

棘鬣(メニ)魚九ッ骨

近世好事の輩鯛の九ッ頭異
て品〻を集め秘蔵
其圖を出すまでもなき



国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

月中兎

月中小兎（ウサギ）あつて餅（モチ）搗（ツキ）といふ事を。

十五夜の月を望（モチ）月（ヅキ）と云ひ伝へたるものゝ。

月満（ツ）名此日月在東日月在西遥に相望（モチ）

也釋名小晃（アキラ）たり又望（モチ）月東西

互に相望（モチ）持（アフ）冷（ヒヘ）と云ふ心なり

へその名ねる

北國の詞り氷乃少（ツヽ）まり

へ十々又ルヒと云冷（ヒヘ）半澱（コヽン）の義也へとい

未発（アラ）ヒの音（ネ）残（ノコ）舎（リ）めり江洲志賀郡

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

ヘイツジと云ふ而あり尤も此敞辻
と書きそこ共なりき然れ知ふべし
筒飯宮神領
越前國敦賀郡笥飯宮神領
越前國敦賀郡笥飯宮神領
も六萬餘石ありるよし上古神領
志るしたるに今も其神領地名の殘る
もの所謂若狹乃氣比越前丹生郡乃
笥飯海乃庭好有之苅薦乃
亂出所見海人鉤舩
鳳凰
中川淳庵の考ふ蠻語小鷄の嗚聲ウーン」
雄を「ヒ」雌を「ホ」小鳳凰乃二字を漢人の
音訣也「ヨンストンス」書のふ印帝亜の鷄

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

とゝ圖(ヅ)する物和漢の書ゟ寫來の鳳凰
なり唐土ゟ聖代(ヨ)り来儀せ(ル)ゟ
を外國まで王化ゟ隨(ヒ)て方物を献
物(モノ)をいふるべしとゝ云ゝ

変化(ヘグヱ)

源氏宿木の巻り變化の二字を訓(ヘ)ク云(ヒ)
訓せり紹巴ゝ云口上ゟ(ヘ)ンデとよむべしと

引出物(ヒキデモノ)

引出物(ヒキデモノ)ゝ云事江家次第り見へたり
貝原氏の説ゟ黄ゟ馬(ムマ)を引(ヒキ)出(ダ)て人ゟ
あるゝ事多(オホ)し故ゟ引出物ゝ名ゟ起る
おとるゝかぶべしとゝ云(イ)へり

屏風立様(ビヤウブタテヤウ)事

禮家の書り墨画残上座ゟ立次ゟ

うすぎ極彩色等下座あり
吉哥小唄其外うら見へたり
彩色(イロドル)等かきて墨画(スミガキ)乃
やさを或主我をみかる
此哥や其品我分り
よやんと云詞

諺(コトワザ)一狐小魅(キツネバカ)さへいろ〳〵
化(ばけ)て人乃をあ小貴(クビ)我
おもふ云〳〵是(これ)ハ難(ナン)あり
事常談なり或書ニ云江洲日吉山王乃
御輿(ミコシ)我振(ふる)奴儕(ヤツバラ)乃詞(ことば)
よやせ〳〵云ゆあり文字
書也日次記一人我少
斬(キル)をよやんと

云事見へたり

あるにくざり

小兒八ッ九ツ[illegible]

人壮意(コヽロ)ヲ逆(サカ)小事残[illegible]

ザカリまでアヤニクザカリ小生憎壮(アヤニクザカリ)と書り

新拾遺

うぐひす次鳴へき[illegible]

待ぞや志のぬる[illegible]

魚遊(キヨユウ)

下學集り逮(ユボス)殘盃也とあり又凝當

書り○挿花みる此詞ある[illegible]や茶湯流

傳集三の巻りうすび小燕子(カキツバタ)定残いけ

ー圖ゑ共ゆゑ小魚遊(キヨユウ)の形ありと

云事見へたり

文武火

唐詩敲吹の註り不疾(トラ)不徐(トラ)謂之文武(ブンブ)火(クハ)はよくもものく。必ずしも
火戦云小緊慢得中也。文火(ブンクハ)と云ふやうなる事也。武火(ブクハ)とは
茂林寺乃守鶴り秘義(ヒギ)セー俗リーブンブクナヤガ茶鑵(ナヤガ)ハいへるも常ノ
といふ鑒ルて一貫ハ文武火茶鑵(ブンブクハナヤガ)のるべし

守鶴が傳ハ孔雀樓筆集本朝俗諺志等
ノ由なり

檀那(タンナ)

梵ニ云佗那鉢底ト唐ニ翻ジ云檀那ト又云施主ト
右法衆次第又飜譯名義集等ノ見へたり

貝原篤信の云我(ガ)主君乃事他家ノ人
ノ對シテハ主人寡君ノ如シ

いべり檀那（ダンナ）とハ云べらず。僻事（ヒガコト）也檀那（ダンナ）
とハ僧（ホウ）より財状施（ホドコ）す施主の事なり。
あやまつて公家武家共に檀那（ダンナ）と称す。かや
のあやまりハ俗ハ云べらず。二人ともに
改めて正き方ハいふべからず。はりて
誤り改むるもの多し
今諸州ニ名乃嫡子或若殿（ワカトノ）抔称（トナ）ふる或
若檀那（ワカダンナ）と云よふな流行（ハヤリ）もありや
宗人（ハヤビトノリ）

羨（ウラヤ）まて陪臣の嫡子或其家臣等称（トナ）
今の世（ヨ）も捷歩（ハヤミチ）ニ而人に勝（スグ）れて足（アシ）
速（バヤ）き飛脚の如き或つとむるものあり
昔もありしや扶桑見聞秘記ニ
海野弥平無常が家の子ども上田五郎正勝と

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

て無双の大音声ありて早走りの達者あり
秋の日なれも朝卯の刻より宿残おて申の
刻(コク)過(スギ)まで三十里ばかり行たりしあり

桐火桶(キリヒオケ)

古へ我邦に桐火桶と云ものあり今も其
製ありて丸く小爐残りたるを室(イヘ)にて
其外り桐の木残くりたるを宝にて
入其ふたも桐を用ひ穴残りき蓋の
うら残眞鍮ありてそこに其小爐り炭残
を寒き時容り與へて手残あたゝめ
志ある主人も別に用ひて手容小對にて手
をあぶる中華の経鉏堂雑志り倭人
所製の爐乃事あり此火桶あるべ
又和訓栞に書名り桐火桶あり

風雅集
はつ雪すこし春ある色にて
夜ぬる〻冬残るみぐさかるる　俊成

櫻（サクラ）

唐土にも牡丹残りつゝ皆の王（ワウ）と寺吾國
にハ櫻残りつゝ花の王と寺故り國俗
きでよんで賞翫する事なり

乃ち又本朝乃ち残賞する事寛平帝
雅櫻（サクラ）宮り始まりぬ
御簾（ミス）かゝげ霞のかゝる時
乃ちや花乃王（ワウ）と詠ぶ具なり

公卿
寛政の頃或行幸にまかりあふ兵邊の

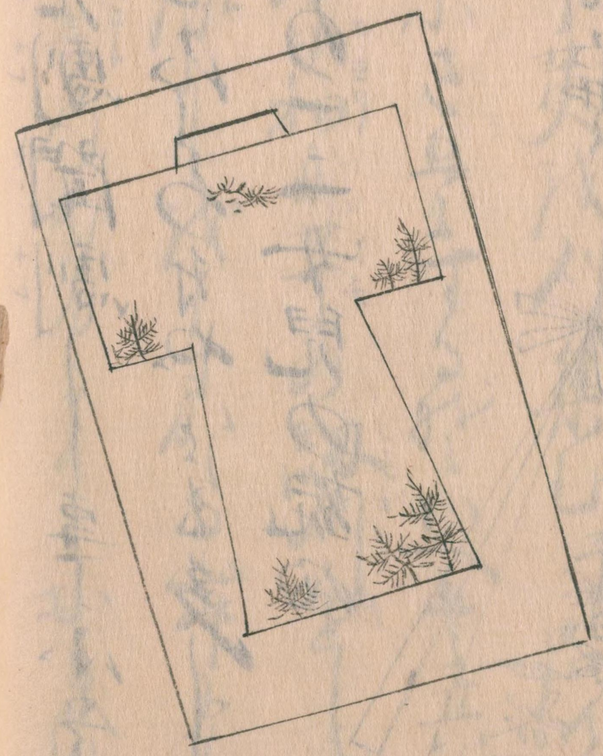
畠海苔芋茎多く作りたるが折しも秋の
末ゆゑ芋葉すでに枯ぬれば傍人に
あつて共芋葉茎刈集め手問るハ
今何乃為めぞいぶかしく共なり
答ふ今年の如く初め芋の細く
冬の貯よすがなき山家なれば
刈るのだといふ雅言乃あるよし
おもひあはせ

又常より異聞聞馴
乃ミ雅言ともおもはぬ
おもひあはせ二女児の挽物
誰袖 楊枝指

琴
色よりも香ぞ
哀なる花ゆゑ
誰袖ぬらし一宿乃
梅もと

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

御着到百首



又深近の
雛形（ヒナカタ）

石吉鳥の巣
子の庭前（コノテカシハノコボリ）の側に枝吉木ありて日乃
めも見へぬ中小枝葉繁茂しけるゟ
通ひ安永のをり石吉鳥来りて
中ほど枝ゟ巣ばりして雛鳥をやし
かしそのゝち立去
ぬ

桜（ハレコ）

そ一折かしを

世俗ハ親乃最愛の子我稱して
をりかごよいとを掛すゐ
小傳ふる八咫鏡の如くすま
一の宝也此云意と見へたり
に角ふ承端我折也
頭てなりけるごと兵家も
准へ云ふ承へて又鍾愛乃子我御寶と
いへ承も是て同しかるべし

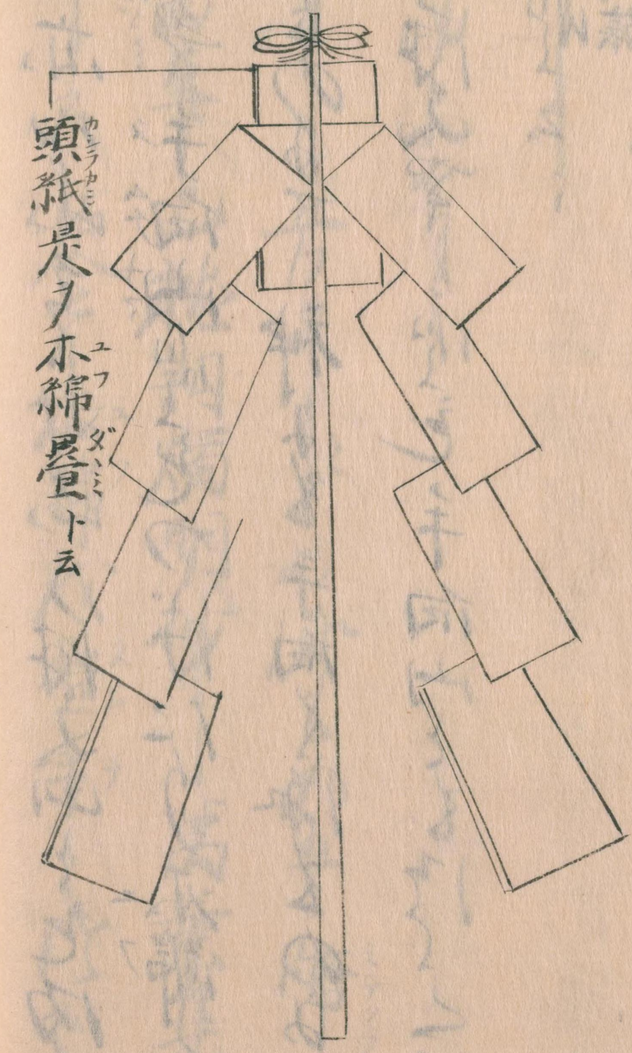
まむし一矢入道

へてムシヨ入道コヽシといふ事何處童子
と蔵りよく出り是もの事我
はゐむる一倦て唯夜日間我費し
無益り可惜日我送り夜も事ら歟

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

油火を具てよろこび帰り、遊楽戯なめる人我誹諧て書始めをするの
かるべく
小野篁て
和哥一ユフメ、ことよのめ侍ものゝ帯乃
頭紙の事也枕詞燭明抄一萬葉集の
十二哥ゝ是ゝ木綿我畳手ゝ作ゞを
たるゝ赤小豆ゝ井志ゝ度山ゝを用ゝ
木綿ゝ手向山ゝをつゞけたり木綿ゝ
向きゝものゝて神ゝ手向くゝものゝれ
だゝゝほゝやゝゝを手向山ゝをゝくゝ
ありゝゝゝゝ
お葉旅
由布ゝ見ゝ手向山我今日ゝて
何ゝ乃野邊ゝ庵ゝむうを 坂上郎女

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用



頭仲

惣地ヲ白地ノ龍紋小似タリ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

右

上代唐物鳥の手といふ釉の圖

陶器の模様

或人の説に瀬戸陶類の茶碗皿鉢等の縁小さくたゞ薬掛を模様にする事古く風俗也今は是迄小紋といふもの多し又醫師の薬匙に菊花或は蒔絵抔にしたる類ひ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

菊花を擬(ナゾラ)へ作(ナ)せる事にて薬のよくきく。
よしその意(コヽロ)なるべし。さてし兵(ツハ)彼
灘(ナダ)邊(ベ)の菊花乃故事(コジ)よりの
ものと云(イヘ)り

色紙(シキシ)

色紙(シキシ)に名(ナ)を彩(サイ)色(シキ)せるを以(モツ)て色紙(シキシ)と
日(イ)ふ。又(マタ)物志(モノガタリ)に始(ハジメ)て云(イヘ)り。元和中。元稹
使(ツカハ)蜀(シヨク)管妓薛陶造(ツクラ)十(トヲ)色彩箋(サイセン)以寄
吾國(ワガクニ)にて孝謙天皇(テンワウ)の始(ハジメ)て雑々拾
遺小見(ショケン)へたり

菅三品

碧玉(ヘキギヨク)粧箏斜(ナヽメ)に立柱(タテジ)青苔色紙(シキシ)數行書(カキ)

人勝(ヒトカツ)

導生八歳云劉臻妻陳氏と云もの人勝(ヒトカツ)を
作(ナ)るあしたに絲(イト)或(アル)ひは金(キン)をもちりだめて

仰承ル云々

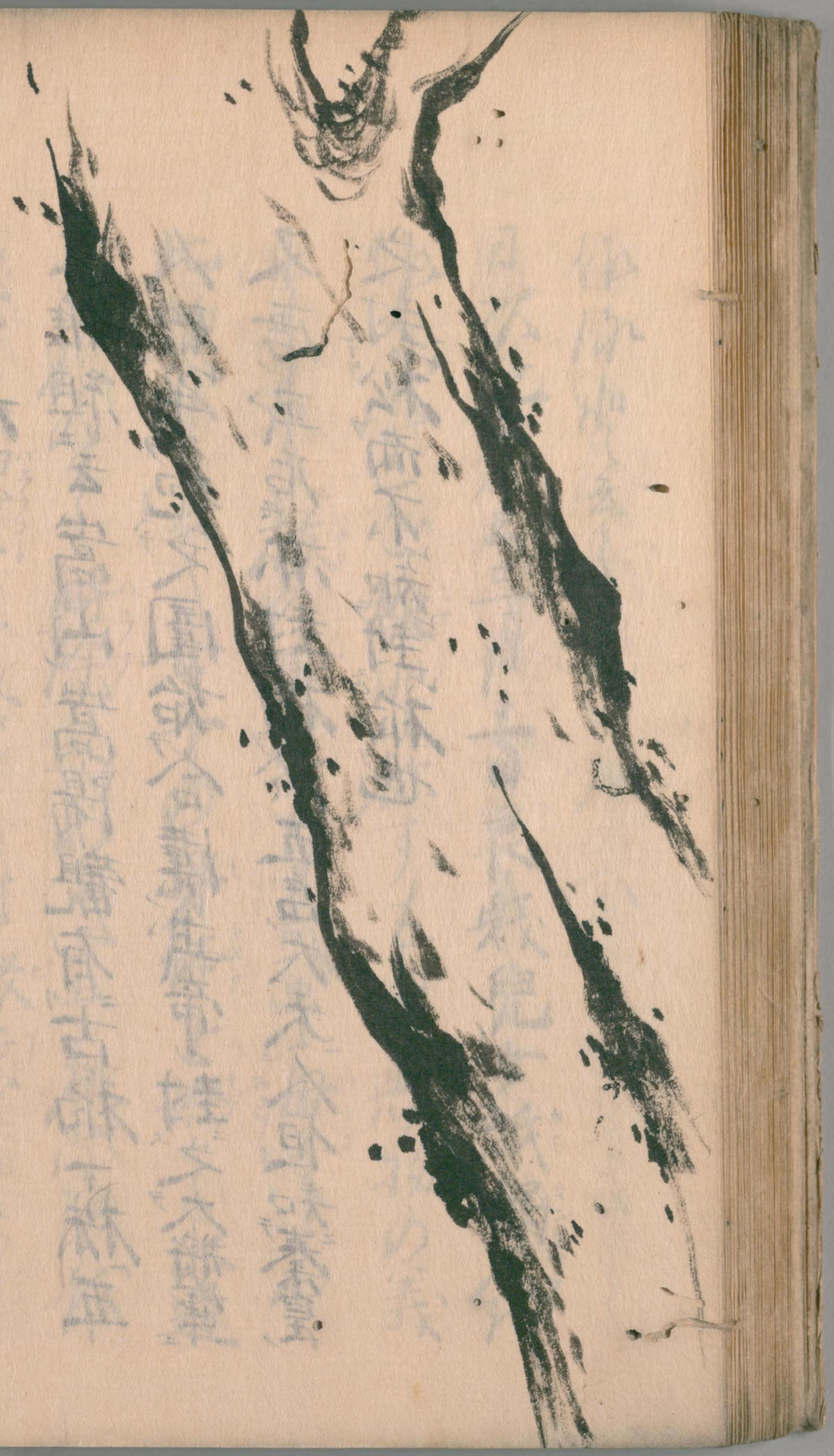
日次記ニ云三月三日良賤兒女紙偶人ヲ
作ルヿヲ雛ト称スル本ハ贖物ノ義
ナリ或ハ母子ト名ク
ニ。被ノ異名ナリ
此物ヲ以テ女子ノ身体ヲ撫テ水邊
ニ解除之ヲ
飲ヒ亦禊事ヲ修スル
カ
ナリ

五雜俎ニ云嵩山嵩陽觀有古柏一株五
人聚手抱之圍始合藻其帝封之大將軍
又唐武后亦封柏於五品大夫人但知秦皇
之封松而不知封柏也

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

三川神社酒の事

篇り造酒と書てミワと讀せたり延喜式大嘗會
安藝國より三輪川神云あり是も方葉
書ゟて上代酒ハ造水ゟ取る川ゟて
神酒川神云ゟ出て彼國の風土記ゟ
見ゟ三輪明神ゟ酒ゟ神ゟ出ゟ事



国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

日本紀に有り黄金を諸國の醸酒家に
三輪の杉を折来りて
衛護と勢ひより今酒店に酒林と
て杉枝括りて造酒屋の共餘風なり。

乃ぶん

或人の云糠味噌一名慘沈枝サンジン
菩薩の塵といふ事なるべし其故
栄葉枝菩薩といひ又菩薩乃二字サツ
冠折枝省き取用ひて一サツを二ツ宛
二合ぬし一サツ乃畧字枝ゑす是を俗
りさいぐさつといふもの歟 此

訓義戯言ヨリ仰テ訓義ありと
云ふ事ハ
上古ノ子我養育事ニ
ヨリ神代上巻悉ク是吾
ガ子ヲ養ヒ今日我明日
ヲ足テ養ヒ訓義也逝世井上河内守殿乃

哥ヨリ
這ハ
這ヒ立テ歩行ノ子我ガ
ヒゴ身ヨリ積ル老ヲ立テ
此哥ヨリ久ノ訓義ヨリ叶ヒ
たるあり

ものゝ
モノモヲ日本紀舒明天皇ノ巻五百巌子ノ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

奏（モウシ）請（コヒ）書（カケ）り案内也 和漢三才圖會六十五
卷陸奥國部 諏訪大明神の社記あり
其下文（上下文畧之）
云（イヘハ）物申（モノモウトイシ）石答（ヘ）て有（アリ）同（ヒトシ）誰（ト）之音（ラ）

馬鹿（ハカ）相違

下部家（ケ）り行（ユク）て中臣祓（ナカトミノハラヘ）と云（イフ）ものの延喜式
の内（ウチ）ある大祓の詞（コトバ）ともに結句（ムスヒノク）も馬鹿（ハカ）の相違

彊（カモ）

今和名抄（イマワミヤウセウ）つゝ呼（ヨブ）す字音（ジオン）もて彊（キヤウ）とのみ
いふなり和名類聚鈔（ワミヤウルイジユセウ）に云（イフ）野王曰（ノワウイハク）彊（キヤウ）諸延反
和名（ワミヤウ）毛席（モノムシロ）撚（ヒネリテ）毛（モヲ）爲（ツクル）レ席（ムシロ）也とあり又拾遺
和歌集第九（ワカシフジフクノマキ）能宣（ヨシノブ）小車（ヲグルマ）乃（ノ）かもをもこひ
につゝ八十（ヤソ）ぢの藤原仲文（フヂハラノナカフミ）が哥（ウタ）あり車（クルマ）の
かも（カモ）を車小數（クルマヲカズ）彊（キヤウ）の事（コト）也

鹿皮さして、馬沓いと
かるをおこしともおも
かへし
なめしかはをもてつくりけむ
鹿皮や馬ぞといふ山べりの
延喜式十四巻縫殿寮に
褌二トつ也右順和名又式に載る
とこゝろえもて考るに
物もの也へ鈴生皮を共毛
ぬきてなめして褌(トヽ)なども造り又皺(カモ)なども造
るなり或ひカモジといふ
下品の賤
北國の辭り物乃微(スコシ)きかぶ
一丈(ヒトヘ)が紫砂糖(クロサトウ)といふ
下品乃賤きなりき

或人の云る丁寳暦頃迄も越前國坂井郡
三國の町ゟて〻紫砂糖(ムラサキザトウ)と云
ふ載せ價一銭ツヽ店賣(ミセウリ)仕候よし是
なん詞ゟ起りたりと云

主水(モンド)の訓

モンドの訓義未詳ゟ考来ると雖も法(ホウ)
水(モンド)ゟ出たりと云事大和物語ニ見へたり

又或書ニ云モイ乎ゟ水乃古名也て主水
(モンド)ゟ残モンドといへるもモイトリ(ハイトリ)ゟ出たりと云事のよし
是へさりとて蠅虎(ハイトリ)乎蠅虎と官名ゟ似て又奇突

所司代

傳ニ云將軍義政の時京極持清補(ヲサ)待所司
(ショシ)ニ爲(ナシ)代置(オキ)京都(ミヤコ)ニ爲(ナシ)ゟ使多賀豊後守。中原高忠爲(ナシ)代置(オキ)京都(ミヤコ)ニ爲(ナシ)
之權輿(ケンヨ)ト云ヽ今按ゟ所載太平記(ニ)

貞和元年所司代都築山城入道審後違へ
物日(モノヒ)のあま
北國の風俗(フウゾク)毎年秋の末方より始り
て翌年初夏(ナツ)に到(イタ)り項(コロ)まで折々(ヲリ〳〵)かゝる
此事あり譬(タトヘ)ば祭(マツリ)日節會(セチヱ)其餘物日(モノビ)小
當る前後(アトサキ)大雨(オホアメ)ごり風烈(ハゲ)しく雷鳴(カミナリ)
すまじき何のあれ彼荒(アラ)れいかる故(ユヘ)
や兵燹(ヘイセン)残(ノコ)すまじきあるべいる
字別義也荒の字アレと訓(ヨム)
訓寸俗(ソク)雨(アメ)ふり風(カゼ)乃吹事也つり
フキスサブ事也

堀川百首
むら〳〵見(ミ)えいもう垣根(カキネ)の荒(アラ)ふ
茅(ツバナ)花(ハナ)まぢ〳〵ともすれば
公實

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

新古今
木もひうちぬる霄も
吹きにすさぶ夜の手向風

根津權現（子ツコンゲン）

武州江城の北り根津（子ツ）權現の社あり所祭
倉貴命又根津（子ツ）といへる嵐（子ツミ）の縁語ふる
り社説見へたり

氷川社（ヒカハノヤシロ）

武州足立郡（アタチ）當國一宮。傳テ云日本武尊（ヤマトタケノミコト）東
征ノ到リ于此ニ勸請素盞烏尊（スサノヲノミコト）又氷川（ヒカハ）ト
ゐ云ヒノカハカミ）上ト云ふる緣語也ト彼社記ニ
見へたり

蜈蚣（ムカデ）の訓

日本釋名ニ云蜈蚣（ムカデ）ニ兵手ニ名ニ向（ムカフ）リ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

ムカヒ手の義也と記せり今按ずるに此説非あり群手（ムカデ）の訓義ふさはしからず

蜈蚣（ムカデ）虫咬を療す

香附子茯苓（カミ）碎（ソウダ）き共に痛處より灸すべし

立處に愈る

蜈蚣（ムカデ）虫咬する時即座（ソウザ）に治す方

紙撚（ヨリ）一條火（ヒ）にて焚（タ）き其煙を以て患處を薫（クユ）らすべし即座に痛止て愈る事妙也但し紙撚を用ゆる時は火氣を去（サ）るへからず

丹波を以てぬるへし

正徳の頃ゆゑ或ひと方の句とて人の語りける

蜈蚣（ムカデ）より人乃（ウシロビ）指

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

墓（ヒキ）目

採梔集覧り白井宗因の説あり曰引目
弓神代より起りて神孫降臨乃時を本
とす其後和州丹生の寶墓より取出して
相承慥成一巻（中川氏家藏之書也）あり更に世の人
知承不ることあり守（下署）鳴弦を其流来年久
しき小到て今天子毎朝乃御釜井ゟ

御湯引ま之ゟ藏人参候して弓弦（ユヅル）
鳴して悪氣を祓ひ遠く警三轉
退治乃ち引到て敵弦打して敵弦退
く事あり更ゟ人弦取ることなし然
ゟ其始を残して其法弦省く事を
我朝矛一の秘極此ゟ詳ならず
杜甫詩に鳴弦不（二）虚發（ト）云々

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

蚰蜒（ケジラ）

或書に云蚰蜒は毒ありて頭髪（ツムガミ）を脱（ヌケ）し毛（ケ）ぬける昔梶原景時も蚰蜒を誤（アヤマ）て剃（ソリ）し事ありと言（イフ）なり事（コト）実（マコト）なるや慥（タシカ）に詮（ザン）致（イタ）し度（ド）事（コト）也

今（イマ）害（ガイ）ある事（コト）也

弓張月

大和物語に光孝帝（光孝天皇）の御時舟恒（フナツネ）我召

て月の最（イト）面白き夜御遊（ギョユウ）ありて月を守（モリ）とて小名（コナ）何乃（なにの）なにがしを召（メス）れ階（キザハシ）の本（モト）にさぶらひて仰（アオ）ありけるは

照月我弓張（てるつきがゆみはり）とし

やあべをさうて入（いる）

御門（ミカド）愛（メデ）させ給（たまひ）て

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

玉（タマ）ゐる水の

名所方角鈔（メイショホウカクセウ）讃岐國絃打（ツルウチ）山

條哥（ジヤウカ）あり

絃打（ツルウチ）の山より出る月影を

弓張（ユミハリ）ゝ月（ツキ）とやいふべらなん

名所（メイショ）

本朝の俗文人風月（フウゲツ）を賞（シヤウ）する乃（ノ）地（チ）

にて名所（メイショ）を記（シル）せるも

あるとも此説（コノセツ）を誤也（アヤマリナリ）代（ヨ）くの和哥撰集

ゝ入（イル）詠哥（エイカ）の在（アル）土地（トコロ）をすべて叢

ゐ小なり又哥枕（ウタマクラ）

我（ワ）まづめる色（イロ）云々個（ココ）

ゝ地（トコロ）我（ワ）求（モトム）るよ〻の意（コヽロ）

ゝ十訓抄（ジツキンセウ）

實方(サヌカタ)に奉(マツ)りて陸奥(ミチノク)
より任(ニン)せらる任國(コク)なれば
又能因が哥枕其餘新哥枕(ウタマクラ)
書名あり考合(カンガヘア)せて意味すべし

香花

今世(コンゼ)に佛法(ブッポウ)を信(シン)ずる人乃(ノ)愛(アイ)する
庭前(テイゼン)の実(ミ)を貪(ムサボ)り是(コレ)を採(トリ)て佛前(ブツゼン)に
供(ク)し或(アル)事(コト)に遭(アヒ)て佛(ホトケ)に仕(ツカ)ふ
るもあり昨(キノウ)今(コン)よめる事(コト)もよ
菩提相

香自禪心無用(ナシ)火(ヒ)花開合掌(ガッショウ)不肉(ズニク)春

又古哥(コカ)
折(オリ)すてし手(テ)ごめさへ(ヘ)
ぞ立(タツ)ぐる

三世乃佛(ホトケ)に法(ノリ)たてまはる
八功(クドク)德(トク)乃(ノ)池(イケ)の眞(シン)
水(スイ)今(コン)と雲泥(ウンデイ)萬里(バンリ)乃(ノ)たび眞(シン)

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

我乱セ候事甚シ
矢卓（ヤタテ）
矢卓（ヤタテ）云々の昔をありけん世も扶桑
見聞秘記壽永二年（キソ）乃願書我（ワレ）認（シタヽ）む
る和の條り　覺明（カクミヤウ）旋踵（センスイ）急き願書我
夢也軍小勝事不可（ベカラ）進ム申覺明（カクミヤウ）甲（ヨロヒ）の引合
より矢卓（ヤタテ）取出し肯趣我願す
又平家物語の下（シモ）籠のやうだてる小硯（コスヾリ）
疊紙取出し本膳殿の前（マヘ）へ置
願書我かゝりて矢卓（ヤタテ）といふ事
見へす
緑所（ヨツテ）産稱名ノ
神別記り云尖（トガ）在山物爲名海人住在海
ノ

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

物爲名ク山ニ有ル木ノ實草ノ
實獸類海ニ有ルモノ魚鼈海藻乃
類ナリ今ノ世ニモ熊之躰虎之態鹿之
躰ノ小男子并名ヲ付ケ又女子ノ名ヲ松杉
ノ類ノ山ノ物ヲ以テ名ヲ付ルモノアリ
且魚ヲ以テ名ヲ付ル事ヲ記セシモ
適ニ海老藏ノゴトク名ヲ付ル浪鹽抔ト海物ヲ以
テ名ノル古ヘハ猿丸太夫鮪臣ナトイフ
名アリ大古ノ如ク住處ヲ自然ト其餘風ヲ傳ヘシモノ
・苗村明神
和漢三才圖會ニ云近江國蒲生郡ノ苗村明
神ヲ祭ル社アリ祭神未考ト寺鳩氏云
(ハ)三十三年ヲ小一度ノ大祭リアリ當郡

の内山面村(ヤマヅラムラ)十稼多久魁(ヤシラ)有り近鄰乃
稼多く集て各甲冑弦帯し騎馬ゆ
祭禮(サイレイ)の如く盛んなる一異也いはゞ其由来
志(シル)す
玄關(ゲンクワン)

俗に或は事務玄蕃寮小託(ことづけ)あるひ
言關(コトヅケ)の義をとつて爲(ト)据(ス)事(ル)武用辦暑等

に見へたり志(シル)せる小孟浪(シンラン)乎

傳灯錄に慧海和尚(ヲシヤウ)云法師(ホウシ)者踞(キヨ)師(シ)子之
座(ザ)に隔(ヘテ)懸河之辨(ベン)を對(タイ)衆(シユ)人廣衆(クワウシユ)に啟(ヒラ)殿金(デンコン)玄關(ゲンクワン)
開(ヒラ)般若妙門(ミヤウモン)等(ラ)を三輪空(クウ)施(ホドコス)云云蓋(ケダシ)玄關
の字義(ジギ)かくの如(ゴト)きもの歟

河村隨見(カハムラズイケン)

河村隨見(カハムラズイケン)老人(ラウジン)元祿(ゲンロク)年中(ネンチウ)諸洲(シヨシウ)の風(フウ)

考へ海を築き川を掘て新田畠を發す
其土地を和泉事發明名稱高き
小川を掘て河州の川を落す大和川と亦
大坂へ安治川(アヂガハ)を掘て淀川(ヨドガハ)の澁滞(ジウタイ)を
なず此人實名を安治(ヤスハル)と号すよつて新川
の名ありより此土を開きつて沖よりを日當乃
山を崩して是を世俗(セゾク)陰見(インケン)山

ゆへ縛せり

半邊蓮(ハンヘンレン)

松岡玄達の説に云半邊(ハンヘン)蓮(レン)と云る草あり
和名カラクサ。キンガラクサ。レンゲツルハスノミソロシ又
播州也て也カタ
イカリと云安藝國也て(サンミヤウガサ)三加賀
國也て。地ビリ。と云也此草溝(ミゾ)の端(ハタ)の水地
に見へぬかぬ(ヒロクサ)繁茂す葉も地ニ

葉生ず葉崔苞り似て大き也夏莖の末
一輪(イチリン)宛(ヅヽ)開(ヒラキ)細き龍(ハナ)胆に一方へ行よりて咲(サク)
うすむらさき至てよき香あり今物の
鐘馗(ケブリ)咄す名唐草といふるもの是此草より
起(オコ)りし歟 今俗するり鐘馗(ケブリ)唐草(カラクサ)権輿(チノケンヨ)
ある歟よりし歟も誣(シヒ)を承説なり

後土御門院の朝宗祇法師と
柬常縁(ツネヨリ)志(ココロザシ)して古今和歌集乃秘(ヒ)伝(デン)
傳授し始て連歌百韻の法式を定(サダ)
脇の句第三及び月花の句法皆宗祇(ソギ)を
祖(ソ)す是(コレ)其(ソノ)本(モト)を稱(ショウ)するなり
法橋紹巴(ジョウハ)号臨江斎(リンコウサイ)特(トク)に連哥(レンガ)を
宗(ソウ)光(コウ)に秀(ヒイデ)て新式を
定(サダ)め紹巴(ジョウハ)盛(サカン)なりて紹巴(ジョウハ)を
中興

自然斎
又号種玉庵

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

寺里村昌叱同息昌琢紹邑ノ聲名我齋（ヒトシラ）
寸自此相續テ宗旦（ハナ）ノ家我意ノ本（モト）ニ

著聞集
頽（なだ）れ来（く）る波の本（もと）のしら玉の
花のきはゝ（ハヽ）ゝ春ぞ忘（わす）れ
八橋（ヤツハシ）

伊勢物語ニ三河國八ツ橋ヲ過ル小水（ミツ）ノ行
川乃蜘手（クモデ）かきつ幡。橋成（なる）ハ
るゝ。八ツ橋ハ杜若（かきつばた）ヲ題（だい）ニ
面白（おもしろ）く咲（さき）り（卜文暑之）
宗祇法師の頃（ころ）まで其（その）形（かた）を失（うしな）ざりし
今や名所方角抄ニ云（いう）此（この）川ノ
痛三町計西ノ方（かた）ニ北（きた）ヨリ南（みなみ）ヘ流（ながれ）たる小川

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43
ガラス使用

あり橋を一太計かる広角なる小き浅
八ツ渡(やつわたり)とるよし記(しる)したりさて燕子(つばくら)淀
の事を見(み)すて考(かんが)ふるに此時既
に燕子(つばくら)淀を絶(たえ)てより已や兵事(へいじ)残記
さず又夫(それ)より後(のち)の跡(あと)を知(しら)ざるよ
りある事(こと)なき春(はる)の見(み)えたり和漢三才圖會
小三河國八橋村の所(ところ)に一首(いつしゅ)の和哥(わか)残(のこ)り
音(おと)に聞(きく)三河乃沢邊(さわべ)未(いまだ)見(みず)ては
思(おもい)ありそ燕子(つばくら)花(はな)かし
此哥(このうた)何(いつ)集(しゅう)誰(たれ)人(ひと)のよりて詠(よめ)る
不審(ふしん)しく覚(おぼえ)侍(はべり)又今(いま)世(よ)に三河國八橋
村(むら)といふ小庵(こいおり)八橋山無量禅寺(むりょうぜんじ)といふ小庵(こいおり)あり
彼(かの)處(ところ)業平(なりひら)の観世音(かんぜおん)を安置(あんち)奉(たてまつる)又其(その)
八橋乃古杭(ふるくい)なりとて小(ちい)さき三尺計(さんじゃくばかり)の杉木(すぎき)残(のこ)

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

厨子小納言有り今少
し栽て八ツもの面影残り共外業平
縁結びの行ふ所にて倩うへたり皆
共縁ありてよつて品〻物
人後り設けしものふるべし

菱花鏡

菱宝鏡とも裏形り菱残す所をいふ

因之鏡餅り菱残す云へり是難波
の契冲の説なり又鏡餅り範式置事
ふ八頭咲の鏡の形を表するものふべし

椀

椀或ゴキとい小事續日本紀り御器の膳
ふ云又見たり又今世尓椀と云もの是
古引入合子ふ云ひ云ものふりと

檳榔鈔り記り平家物語小木曽義仲
精進がり[1]の詞あり職人盡哥合小いもぢ
づくしなどの詞ある事古代ゟ用惰乃産
我土品ゟ発[2]ゟや今も年始り門松り
はくほ蔦合子ぬいふもの有り古き詞ゟり
○大峯の圖[3]のあゟり也[4]人ゟ誹諧連哥
ゼー小最発[5]美家[6]ゟ舗[7]ゟる器物の音席へ聞へけゟ事

大峯乃圖[3]のあゟりの近きゟや　季吟

ゟりゟ[8]ふらんごきゟでんきを

此哥ゟ御器膳[9]ゟい小事ゟる當山[10]の役小角[11]
の故事ゟ引てよめ[12]ゟ也五鬼善鬼ゟ役[13]の
行者[14]の使令[15]ゟり

四手田長

本朝の俗杜鵑哉よんで志のいり亭集

誹諧歌解り云

藤原敏行朝臣

幾(イクヘ)の田哉はる〳〵きつる

四手の田長をあさるなるべし

四手の田長と云ふ郭公の一名也ける古きもの

小記也。郭公を死出の山よりきたる農

ゑぴすむる故事志その国長洲いう。此説ふよし。手田長残郭公廿一名とする事。

隠る證もなし萬葉ゟ郭公

如此くより一名ゟ廿五せつす種くより

よめる哥いくむくといふ

讀ゑ必ず弁出すべき事ゟ伊勢物語

り出ゟ今なの哥ゟ歌行の哥ふ

ゑ業平同時の人なれば證ゐするゟ

きふず伊勢物語の哥ゟ

残よりしへ廿手の国長ゟ

読るゟり夫故庵(イホリ)數(アマタ)多人詞ゟり催馬楽(サイバラ)

てゐ。ふいへ農(ノウ)人残(ノコ)ゟ詞ゟり催馬楽

ゟ妹が門や。せなが門行(ユキ)すぎかねて我行(ワレヲ)

だ。眩(ヒテカサ)笠の眩(ヒナガサ)笠の雨ゟや降(フラ)ぬん。廿手の国長。

雨なぎり笠やどりなどりて汚ふむ。法でのり
田長。水あり。詩経り一田畯我古点り
田長（タヲサ）と有り。田我もちて仏るものの
シデの字ゆて。シヅと同じきり。汚ぶ
見あるゝず然ゆ此哥催馬楽（サイバラ）のは
方言俗語（ハウゲンゾクゴ）あるべし。イデ石我。イヅシ水ゝ云。秀
ぴ我の字。ヒイデルとも云へバ。シヅ我シデと云ふき
り那す。古ゝる事。古へ農人我心手の田長水
云いるるり哥の意ゆてゝぎ沢と萬我
植る頃より夏秋かけて
なゝぎ沢い何程（イカホド）田我もちて仏する
朝毎り来り帰て農人我呼（ヨビ）ゆて田我
ゆ事也すむ事也いへる
る水ゝ汚ふ。郭公の田垣
ゆ催馬楽（サイバラ）ゆも此催馬楽

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

也乃て此我の哥我大の
同一意(こゝろ)ありいへり催馬(さいば)
郭公らーき事かつてなし
者(てふもの)
者(てふもの)と書本朝の舊文り多くありて者の
字我用いてテイレバ訓せり今按ずるに
字彙所以分別(わかち)隔異也又事苑り指事(さすこと)辭
とあり貝原篤信の說り
意を畧せり唐土の書の中　天子の勅詔
臣下の奏書り多く者の字我用の日本(やまと)の
テイレバ訓す上の文我うけ受る字なり近代
日本の俗まゝび損(そこな)いて下の句の上一畫
なり誤りなるべし
鹽(しほ)のやま指(さす)

海もあれども山ぞ三日の指哥あり

鹽（しほ）の山（やま）指（さし）もの儀（ぎ）

君が行（ゆき）末（すえ）は八千代（やちよ）までも

鹽（しほ）の山（やま）指出（さしで）儀甲斐の國乃名所也宗祇法師

の云（いふ）ことの葉（は）のやうさすがに云（いふ）磯（いそ）と云甲斐國

海なりといふもよめりとや申（もうす）べからん

伊勢物語七ヶの大事（だいじ）と云書（しょ）あり其（その）云

三日原（みかはら）と申（もうす）近江國三上山（みかみやま）の異名也其形

富士山（ふじさん）に似（にた）るにより赤人の哥（うた）よ

ちはや振（ぶる）三上の山も海なりや

月も指（さし）三日原乃やうや

今按（あんず）するに此哥（うた）成（なる）べし其證（しょう）

無覺束（おぼつかなき）哉（や）予（よ）又調（ととのう）此哥を富士に鹽（なし）屋

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

山そびえるありさまや雨の形チ似寄ぬ
後人の仆意ぬてよみたるべし此哥ハ
赤人ふじを覺束なく七チの大事笑ふ
絶たり此哥も山ノ塩乃縁語ある事
ふ小記セ利

遥見御牧

遥見御牧〇甲斐國巨勢郡小あり穂坂
小荒原等皆牧ありて駒ハ出す
貫之家集
都まてかはきてふ引ハ小荒原
遥見乃御牧の駒小荒原
甲斐源氏小笠原信濃守貞宗の玄孫兵庫助
長秀以来倭禮乃家ニて代々将軍家
り仕へて天下の師ニなつて普く人用
ひら今世禮式り拘りたる事ハ

小笠原の一ツ家ハ毎年
よく通する
よみ成るを誠小笠原家の規模枝葉
とはのべ又いまゝ紀氏のよみ本
哥ゝ本のつゞき共なり
も小笠原の作る
も小笠原奇なるや
破横紙
破横紙ゝ云ふ事源氏の義也平家
物語ゝさゝる横紙を破ゝて大政の
入道殿ゝを都がゝりあるべしゝ
ゝ云ゝ

一鴫立澤

鴫立沢ゝ相州淘綾郡にあり名所也
或書ゝ云往古此地葬所ゝ
死ゝ木也卒都婆ゝ

辰
特別
43

庵我結びて西行の杖の跡
近代俳諧の名を風雅
勢十哥仙より三十風雅
号す勢州の人無師傳成一家の延宝中人

なつかしき身よも哀も
鴫立沢のあきの夕ぐれ 雰

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43
ガラス使用

辰
帝国
43

国立国会図書館　タイトル『越人書』　請求記号 辰-43

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『越人書』　請求記号　辰-43

ガラス使用